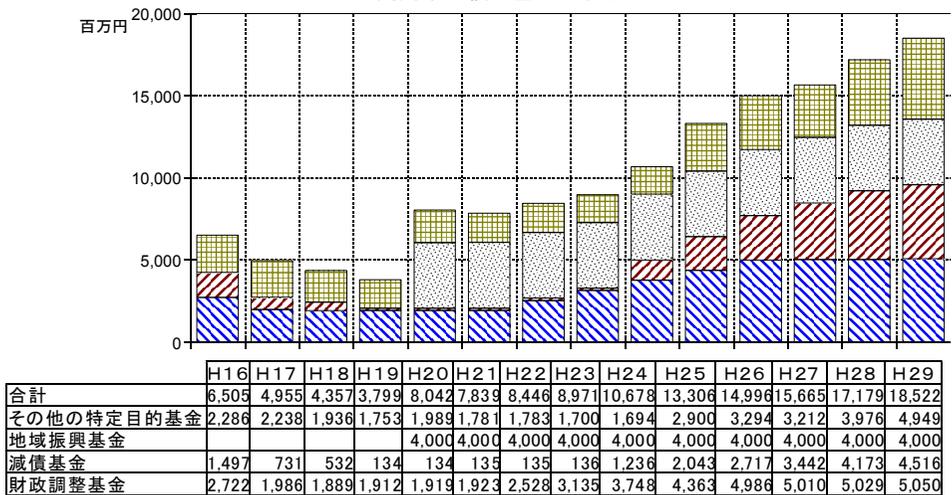


市の積立金3・7倍に 市民要求に応える財源はある

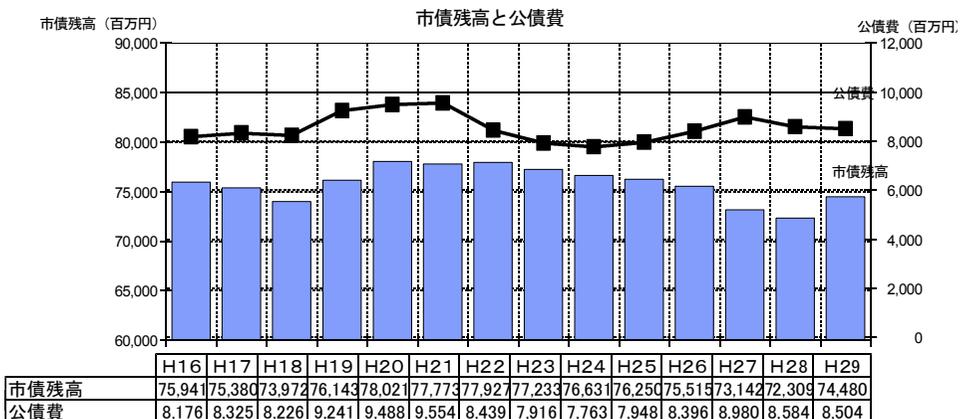
鶴岡市の積立金は年々増加し、平成29年度末には185億円を超え、平成17年度合併時の50億円の3・7倍に

市民要求に応える財源は十分にあります。一方、市債残高は年々減少してきましたが、29年度は市文化会館の建設の影響で増加に転じ745億円になりました。

鶴岡市の積立基金の状況



市債残高と公債費



刈稲

千里平疇刈稲忙
颱風不作早蝗亡
田家以苦乃為樂
農月無閑百慮忘

千里平疇 稲を刈りて忙し
颱風 作らず早蝗 亡し
田家は苦を以つて乃ち樂を為す
農月 閑 無く百慮 忘る

稲を刈る

城貞（藤の花）

見渡す限り、整理された平らな田んぼでは、農繁期に入り稲刈りに忙しい。今は台風も起こらず、いなごの群れに 稲が食われる害や、日照りの害もない。農家は苦勞こそが楽しみなのだ。農繁期となり、稲の収穫で暇な時間はなく、農作業のことで頭がいっぱいで いろいろな雑念もなくなってしまう。

【絵を描く】 秋の写生会

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

秋、部屋の窓から外を眺める。澄んだ青空に浮かんでいる雲などを見たりすると、居ても立ってもいられずスケッチブックを抱えて出かけたくなる。空気が澄み、風景が鮮やかで山々の青さが一段と濃い。広がる稲穂の黄金の色とよく合う。

私たちの絵の会（ゑぐの会）は、春、夏、秋、冬に野外での写生会を欠かさない。中でもみんな手ぐすねを引いて迎えるのが秋だ。

これまでの秋の写生が浮ぶ。「月山牧場の秋」、「上川代集落近くの溪流と月山」、「黄ばんだ銀杏の並木通り」など。

「眺海の森」での写生も忘れ難い。眼下に広がる紅葉の森林、その間に見える隠れる田んぼや民家、峰から峰へと伸びる送電線と鉄塔、その彼方にそびえ

立つ霊峰鳥海山、その壮大な風景にみんなが声をあげる。

写生に集中するときには静寂そのものだ。聞けるのは足元の草原で鳴く虫の音。はつと気がつくと、スケッチブックの端に赤トンボが止まっていたことも。突然の時雨でほうほうの体で引き揚げたこともあった。

いずれの写生会も弁当持参で丸一日。輪になつて夕べりながらの昼食は最良だ。

夕方、写生を終えるともみんなの作品を道端に並べて合評しあふ。厳しい指摘もでる。通りがかりの人が足を止めて眺め、感想を口にすることもある。

秋―空と雲と風と光と。

自然はなんと魅力に満ちていることだろう。※絵は榎引・黒川集落の東の坂道から母狩山を遠望



中山道テクテク1人旅 26 彦根藩の「恩と仇返し」

新町 齋藤留治

関ヶ原古戦場から近江路の鳥居本宿に入る

と「左中仙道・右彦根道」の道標を目にする。本宿には泊まる場所が無かったため、「右彦根道」に沿って彦根市街に向った。(中仙道は本来537kmと言われているが、寝ぐらを求めて歩いた距離を加えると、本来の距離より大分長く歩いた。)

彦根城は、修復を繰り返しながらも創建当時の姿を維持してきた数少ない名城(国宝)であるが、この彦根城が広く知られるようになったのはNHK大河ドラマ「おんな城主・直虎」のお蔭か。(それだけNHKの影響力は大きい。アベ政権を挙げ奉るような放送は将来に禍根を残す。)

この城は、井伊直正の軍が関ヶ原の合戦で活躍しながらも、その時に負った傷がもとで亡くなった直正に、家康が報いる為に、東西を結ぶ要衝の地である彦根を与えた上、豪壮な築城にも家康は眼をつぶったという。

先日、あるラジオに出演をしていた「城歩き名人」が、彦根城築城余話について述べていた。(多分後の世に作られた美談かも)

それによると、関ヶ原で敗れた石田三成の佐和山城(徹底的に破壊)に代わって、井伊家が彦根に築城することになった時、「人柱」(築城等の難工事の時

神の心を和らげる為の犠牲者)になる若い娘を募ったそうである。

応じたのは家臣の未だうら若い娘、親としては誇りと思つたか(多分引き止めたと思うが)、自責の念で詫びたかどうかわからぬが、毎日を悶々として過ごしていた。

ある日、娘の親が藩主に呼ばれた。

藩主は「築城の為に自分の身を捧げて犠牲となつてくれた親子にお礼を言う。お望みの物を上げるから申してみよ。」と言つたとか。

すると家臣でもある親は、「叶うものならばもう一度娘に会いたい。」と言つたところ、

奥の部屋から現れたのは何んと地中に埋められたものとはびっくりに思つていた我が娘。親は感涙に咽んだ事は勿論のこと、領民を思う藩主の心に、改めて忠義を誓う心根を強くしたという。

今の愛知県浜名湖一帯に勢力を張つていた小さな土豪にすぎなかつた井伊家、後に幕末のテロ集団とも言える長州藩の倒幕武力闘争に組することになるとは想像できないが。

だまされては遺憾！ —千島列島全島が日本の領土！—

青山 崇



12日安倍首相は、プーチン大統領の領土問題など前提条件なしの平和条約締結の呼びかけに、「平和条約への意欲の表れ」と評価した。

これは千島列島全面放棄の危険も心配され野党共闘も大問題にしている。

千島列島の領有問題をだまされずにしっかりと覚えておこう。

ことは第二次世界大戦に始まる。米国・英国を中心に戦後の世界

和条約でも引継いで千島列島を放棄したのである。

したがって領土問題の根本的解決は、サ条約の千島関係条項を破棄・無効化する粘り強い国際的な外交交渉が必要とされる。

スターリンが不当に併合したエストニアなどのバルト3国、ポーランドの一部地域の併合は解決しており、千島列島だけが「領土不拡大原則」に反するの未解決なのである。

第二次世界大戦まで



伝統芸能を繋ぐ

俺が六所神社の神楽の皆さんと一緒にしていることはここに書いたんだが、そんな関係で藤島伝統芸能振興協会(会長 上林次雄氏)に入っている。で、この会の研修会に参加させてもらった。研修先は、寒河江市の「第36回神輿の祭典」である。

▲御神輿は午後6時からのお出ましなので、午後1時の役所出発だ。はじめに訪れたのは、以前は郡役所であった「寒河江市郷土館」という施設。県内では一番古い郡役所というが、役所と議事堂が離れ離れに使われてきて、ここで一緒にあったんだと。俺達のところの「東田川郡役所」は離れることなく、建設当時から同じ所にある事は自慢できるものなのだ。

▲高台に白色が映える。聞いたところ2年前に

「北方領土」は歴史的にも日本領である。

歯舞諸島・色丹島は古来北海道の一部で、根室半島の先端に位置し、日本人が居住し日本領である。

▲国後島・択捉島は1855年日魯通商条約で日本領に、択捉島のすぐ北の得撫島から占守島までのいわゆる北千島は、1875年の樺太・千島交換条約で日本領になっている。以上のことに確信を持つことである。

塗り直しをしたんだと。主体が白。窓がこげ茶で垂木などの濃いブルーがまた鮮やかだ。俺達の前後にも視察団体がおり、教育委員会の職員が説明しており、説明の彼は市役所の神輿に参加していたつけ。

▲続いて「古沢酒造資料館」へ。酒造りの古い道具などの説明と試飲だ。試飲の程からして買い過ぎかと思うほど買ったのでは。5時で夕食。祭り観の前の一杯だ。6時には神輿の通りへだから時間が少ないのだが、話は盛り上がり、伝統芸能の在り方などが出てくるあたり、さすが「この会」の感ありだった。

▲子供を乗せてワッシヨイの元気な神輿が終わって、大人の神輿は何台行つたらうか。締めは5台がぶつかり合う勇壮な演出だった。祭りは見るより参加するものだと、帰路の話題だった。(石川)